

第1回小田原城天守閣耐震改修等検討委員会議事録

- ◆ 日 時 平成23年8月30日(火) 午前9時30分から11時00分まで
- ◆ 場 所 小田原市役所6階602会議室及び小田原城天守閣(視察)
- ◆ 出席者 19名(委員:6名、事務局:8名、オブザーバー:5名)
 - <委員> 後藤委員、鳥居委員、榎谷委員、矢島委員、飯沼委員、石川委員
 - <事務局> 山崎経済部長、長谷川経済部副部長、宮坂経済部管理監、杉本観光課長、穂坂観光課城址公園担当副課長、諏訪間専門監、二見城址公園係長、横井主査
 - <オブザーバー> 文化財保存計画協会 矢野代表、湯本技術員、加藤文化財課長、大島文化財課副課長、志村建築課建築係長
- ◆ 欠席者 2名(小出委員、西委員)
- ◆ 傍聴者 9名
- ◆ 次 第
 - 1 市長あいさつ
 - 2 委員長・副委員長の選出
 - 3 会議の公開等について
 - 4 議題
 - (1) 天守閣の概要等について
 - (2) その他
 - 5 現地視察
- ◆ 概 要
 - 1 開会(要旨)

本日の進行を務める小田原市観光課長の杉本です。本日の会議には小出委員、西委員から欠席する旨の連絡がありましたのでご承知ください。

ただ今より、小田原城天守閣耐震改修等検討委員会 第1回会議を開催いたします。

最初に加藤小田原市長からごあいさつを申し上げます。
 - 2 市長あいさつ

小田原城天守閣は、言うまでもなく小田原の最大のシンボルであり、市民の皆様の関心は極めて高いものがあります。今後の市政運営・街づくり・また地域の経済振興・発展においてこ

の天守閣の取り扱いというものは、非常に大きな影響を及ぼすものであります。

その天守閣を含めた市の公共施設は、平成27年度までに耐震改修を終えるというようになっており、そのために天守閣の耐震改修は喫緊の課題となっております。ちなみに、この市役所本庁舎についても、耐震改修をそれまでに行わないといけないということで、複数の公共施設での耐震改修が迫られている状況にあります。

一方で、市民の皆様の中には、大変根強い、いわば将来への夢というようなものとして、木造での天守閣の再建への強いご期待もあります。これは、市民だけでなく、恐らく城郭といったものに対して、市外から小田原に期待されている面もあろうかと思えます。こういったことも現段階からしっかりと視野に入れて、その可能性も含めて検証をしていく必要があろうかと、我々は考えております。

こういったことから、この検討委員会におきまして、皆様には小田原城天守閣の今後のあり方、具体的には、耐震改修の工法や展示リニューアル、木造天守閣再建の可能性について、専門的かつ客観的なお立場から、また先ほど申し上げたように、小田原市民にとりましてのシンボル、城を守り残したいという強い願い、そういった広範な市民の期待や意識も踏まえていただきながら、様々な角度から闊達にご議論をいただくことをお願い申し上げます。

3 委員長・副委員長の選出（要旨）

委員長に榎谷委員を副委員長に後藤委員を推薦する声があり、協議の結果全員一致で承認された。その後、榎谷委員長、後藤副委員長から就任のあいさつがなされた。

4 会議の公開等について（要旨）

事務局より、本委員会の会議公開の原則及び傍聴等の手続きを取り決めた「小田原城天守閣耐震改修等検討委員会傍聴要領」についての内容説明が行われ、承認された。

その後、この会議の傍聴について協議の結果、傍聴を許可することとした。（傍聴者入室）

5 議事

(1) 天守閣の概要等について

（議事進行：榎谷委員長）

事務局より、資料8～資料15について説明がなされた。

《質疑応答の要旨》

榎谷委員長

最初に追加説明をさせていただく。小田原城で過去にどのような地震があったかを調べてきたところ、1703年に元禄関東地震があり、建物倒壊と津波で多くの人々が亡くなった。1923年には、大正関東地震（関東大震災）で小田原城の崖が崩れた。2地震とも、相模湾が震源地であった。東京大学の川角（かわすみ）先生による69年周期説が提唱されているが、既に69年が過ぎているので、いつ地震が起きてもおかしくないと言える。よって、地震に対して十分に備えておかなければ

ばならない。

また、小田原城天守閣は、台地に建っており、台地では、地震が起きると揺れが増幅するので、地盤も含めて考慮しておく必要がある。こういう状況からして、建物の耐震基準のみに頼るのではなく、独自の震度解析を行っていただきたい。それらを踏まえてどういう耐震改修がよいかを考えていかなければいけないだろう。

後藤副委員長

重要な点だと思うが、現状の展示をこのまま続けることが前提かが大きな問題である。展示物を外に出すのか、展示物がある中で改修を行うのかでは、室内環境が大分変わってくる（空調やバリアフリーについても）。展示がある方が命題が重くなる。

また、耐震改修促進法により改修する場合は、他の基準の安全性については置いておいてよいことになっているが、市の公共施設であるので、避難安全についても考慮しておかないといけない。天守閣は、避難安全についても相当基準不適合になっているだろう。人だけでなく展示品の避難についても考える必要がある。内部の使い方を、現状のままで検討してよいものか。

矢島委員

小田原城天守閣は、展示施設としての適合性は低いと言わざるを得ない。展示を中心に考えると、安全規定や空調も含め、色々考えねばならない。だが、天守閣というモニュメントのみで、中が空っぽでは寂しい。天守閣の中に、本格的なまとまった展示空間とするか、添え物的な、演出のひとつとしての限定的な展示にするかの考え次第で大きく変わってくる。

後藤副委員長

建築の専門家からすると、後者にしてもらわないと、バリアフリーなどの対応はかなり厳しいと思われる。

矢島委員

天守閣のような構造でバリアフリーを考えると、可能なのはエレベータしかないだろう。

後藤副委員長

史跡の関係もあり、現状変更の範囲も大きくなっていくので、直感としては、簡易な展示にし、範囲を減らしてもらった方が、耐震補強の場合でも、木造で再建した場合も可能性が開けてくるのではないかと（負担が軽い）。

槇谷委員長

天守閣の空間を見る人にとっては、昔どういう風に住まれていたのか、どういうものが使われていて、どういう暮らしをしていたかを見たいという憧れもあるので、そのままの方が理想的だろう。参考になるかは分からないが、昨年スペインのガウディの建築物を見てきた。その建物は地下が博物館になっていた。地下室を有効利用することも考えられるのではないかと。天守閣の地下はどのようにしているのか。

事務局

地下室は収蔵庫になっている。前提条件として、天守閣は史跡内に建っており、基本的に地下を掘るなどの現状を変えることは出来ない。面積は 140 m²ほどしかないなので、面積が小さく展示スペースとしての利用は難しい。

天守閣復興当初は、展示品が少なかったもので、市民等からの借用品が多くなっ

た。展示リニューアルに関しては、展示の方向性を決めて、展示資料を縮小する必要がある。借用資料は返却できるかは分からないが、様々な整理を考える必要がある。展示ケースにしても、刀剣や甲冑といった美術系の資料は、今の展示ケースではダメなので、リニューアル後は、エアタイトケースにしたいと考えている。展示する物を厳選とともに、なるべく少なくすれば、改修費も安くなるので、それらを含めて、様々な課題を整理し、次回以降に御検討いただきたいと思う。

鳥居委員

博物館に勤務し展示を行う立場から小田原城を考えると、改修により展示がなくなり、コンクリートの建物を見せるだけでは、観光的な施設としての存在感がない。木造の天守閣で作られ、城の内部が建築的に見るべきところが多いのであればよいが、小田原城の場合、何らかの展示は必要と思われる。ただし、現状の展示を考えると、文化財的な展示と、観光的な展示が混在しているので、その辺の整理が必要ではないか。

小田原市は文化財を展示する施設は多いが、それらの施設についてももう少し性格付けをきちんとすべきではないか。例えば、天守閣は小田原城の歴史に関する展示。また、お城は小田原を訪れる観光客の大部分が訪れる施設であるので、小田原市についての情報を得るための展示、いわばビジターセンターとして機能を果たすような展示があってもよいのではないか。

今後も天守閣が文化財の展示をするのであれば、きちんとした施設が必要であるのは言うまでもないが、その前に、市全体の展示についての考え方を整理すべきだろう。

石川委員

専門家ではないので、要望という形で申し上げさせていただく。耐震改修が目的なのはわきまえており、自主防災組織の本部長としても、被害を少なくすることを考えている。天守閣は、市内外から人が来る施設であり、災害があったときには入館者は元より、展示品の安全確保も必要である。それと同時に、せっかく天守閣があっても、登りたくても登れない高齢者や障害者もいる。予算もかなり掛かると思うが、公共施設にはバリアフリー化が義務づけられていると思うので、この機にそのこともご考慮いただきたい。

槇谷委員長

お城好きの方には高齢者が多いと思うので、そういう方でも登れるものにしてもらえればよいと思う。

飯沼委員

小田原城は市民のシンボルで、観光面では様々な施設や風景も含めて、知名度でもNO. 1である。天守閣に観光客が来てくれ、観光客相手の商売を生業にしている者の代表としての側面もあるので申し上げさせていただくが、予算面や様々な基準・規制があると思うが、耐震改修を行ったために、魅力が欠けてしまった、つまらなくなってしまったということにならないようにしていただきたい。そういう視点も大事にしてほしい。

雑談になるが、市民の夢として、北条五代の大河ドラマ化に力を入れている小説家の火坂先生が北条五代の連載を始めており、3～4年で完結するとのことだ

- が、天守閣がリニューアルになったタイミングで大河ドラマ化されれば非常に有意義である。そのことにも繋がってくれるような耐震改修になればよいと思う。
- 榎谷委員長 通常耐震補強のためにブレースを入れると、外観が変わってしまう。ただ、外観を変えないで行う方法もあるので、現状の姿を維持した方向での改修することを前提とすべきだろう。まだ診断結果を見ていないが、報告書を見る限りは、柱が弱いと思われる。帯状に鉄筋を巻いているが、その鉄筋が少ないように思えるので、地震に対して壊れやすい状態ではないかと推測される。そうであれば、柱をうまく補強すれば、一応所定の基準を満たすことができるだろう。なるべく姿を変えない形で行っていききたい。
- 矢島委員 現状のものを耐震補強する場合、柱の補強を行い、バリアフリーはエレベータしかないと思われる。そうすると、現実的には内部空間が3割程度圧縮されるであろう。
- 榎谷委員長 いずれにせよ、鳥居委員がおっしゃるとおり、具体的に展示施設として何を発信するかをはっきりさせた上で、展示面積が減ってしまうことも含めて考え直さないといけない。展示については、現在のものをそのまま置いたり、ケースを取り替えて何とかできるレベルではないだろう。
- 榎谷委員長 大阪城ではエレベータを付けたとある。それを見た人は、エレベータがお城に馴染まないと思うかもしれない。できるだけ目立たないようにするのがよいだろう。動線を含めて考えるのも大事だ。
- 鳥居委員 まず最初に、バリアフリーを実施するかしないかが大きい。やるならば、エレベータしかない。しかも内部に設置しないといけない。大阪城は当初から内部エレベータがあった。平成の改修では、外から天守台まで上がるエレベータを設置した。小田原城はこれから考えることになるが、可能であるかは分からないが、例えば裏側の石垣を外して、地盤面からエレベータ設置できれば、さほど違和感はないのではないかな。
- 榎谷委員長 展示と同様に、バリアフリーも重要である。
- 榎谷委員長 議論も出尽くしたようなので、今まで出た意見等については、次回以降の委員会で議論を深めていきたい。

(2) その他

《質疑応答の要旨》

- 榎谷委員長 最後に、「その他」として何かあるか。
- 後藤副委員長 繰り返しになるが、耐震改修が喫緊の課題であるが、避難安全・防火・防災面も総合的に視野にいれておいていただきたい。バリアフリーにしても、資料館として大勢の人を運搬するためか、障がい者1人のみを対象とするものかなど、様々なパターンが考えられるので、よく議論しないといけない。場合によっては耐震

補強用のコアで使えることも考えられる。

また、参考としてお伝えしておくが、バリアフリーのための文化財の現状変更は建造物の分野では許可事例があるが、史跡の場合は経験がないので厳しいと思われる。文化庁に聞いてみないと分からない。近代建築物等が重要文化財になっている場合に、バリアフリー用のエレベータをつけた事例はいくつもあるので、全く不可能なことではない。

榎谷委員長

事務局で他の建物・天守閣の事例を調べてもらい、それらを参考にしながら、ベストなものにしていきたい。より良いものとしたいので、改修内容については慎重に考えていきたい。

後藤副委員長

建造物が許可になっているのは、建物自体が文化財の場合は、活用を進めましようという方向になってきているためである。また、史跡については転用してまで活用を進めるという方向までにはなっていない。文化庁の理解を得ようとする場合は、観光面を前面に出すのではなく、例えば、バリアフリー化によって高齢者や障害者などにも文化財に対する理解が深まるという方向で調整した方がよいと思う。

榎谷委員長

次回の予定やこの後の視察について、事務局からお話いただきたい。

事務局

次回以降の日程調整については、電子メールで連絡させていただく（メールがない方は電話等で）。10月・12月・2月頃にあと3回の会議を開催する予定なので、早めに日程を押さえさせていただきたい。会議録についても、メール等により連絡し、ご確認いただいた上で確定稿とさせていただき、市のホームページ等で公開するので、ご承知おきいただきたい。なお各委員に小田原城天守閣を視察いただくので自動車にご案内させていただく。

6 現地視察（小田原城天守閣）